



第2のポイント) 平和と安全を口にしてているのは誰なのか？ 人々です。  
国家のリーダーや政治家や外交のプロたちがそう言っているんじゃない。  
一般民衆・普通の人々が「平和だ、安全だ」と言っている。そんな時が来ると聖書は語っています。

この時代、多くの人がどんな気分で過ごしているかというと、世界はこれからどんどん良くなって行く。  
今よりもっと便利で、もっと過ごしやすく、バラ色の未来が待っている。  
そういう強力な楽観論に支配される時代が来ると言うんですね。

『いかなる英雄も時代を超えることはできない』という言葉があります。  
歴史の本や教科書を見ると、「なぜこの時、来る戦争の準備をしていなかったんだろう。なぜこの時に、こんな愚かしい選択をしたのか。こんな野心を持っている国と同盟を結んで罨に掛かってしまったのか。」  
その時その時の色々な、後世に決定的な影響を与えるミスを選択したのを見た時、後世の私たちは「なんでこんなバカな事をしたのか」と思うのですが、それは、その時代に生きていないから言えるんです。  
いかなる英雄も、時代の空気や雰囲気から逃れることはできません。

人間は、今がバラ色だと これからもバラ色だと思いやすいのです。今がどんどん良い方に向かって行くと、将来はもっともっと良い方になるに違いないと考えるんですね。  
患難時代の直前、世界中が楽観論で満たされている。その次の瞬間、突然の破滅が彼らを襲いますと聖書は預言してるんです。

なぜ、突然の破滅のように患難時代が人類を襲うのか？  
楽観論が支配している時、終末論の警告は一笑に付されてしまうからです。  
「世界はどんどん良くなって行くよ」と思える時代、「いや、世界は患難時代に突入します」という聖書預言は、「そんなの、あり得ないよ！それは非現実的！」と耳を貸されなくなってしまう。  
警告が無いのではなく、警告があっただけ警告として感じ取ることができなかったのが、警告通りに患難時代が来た時に 突然起こったように感じてしまうということです。これが恐るべき点なのです。

第3のポイント) ここでは患難時代を産みの苦しみと表現してるんですね。  
人々が「平和だ、安全だ」と言っているとき、妊婦に産みの苦しみが臨むように、突然の破滅(患難時代)が彼らを襲います。

産みの苦しみとは何でしょう？ 陣痛です。なぜ患難時代を妊婦さんの陣痛にたとえたのか？  
妊婦さんは陣痛を免れることができません。出産の時は大きな痛みが生じます。  
それと同じように、人類は必ずこの患難時代を経験することになると語っているんですね。

しかしもう1つの理由は、患難時代はただただ苦しい、苦しみだけの時代ではないということです。  
産みの苦しみ/陣痛は新しい生命が誕生する時に生じる、生命誕生のために経験する痛みです。  
同じように、患難時代は、新しいいのちを産み出すために経験しなければならない期間でもあるのです。

新しいものとは何でしょう？ 新しい世界/千年王国。それを生み出すために経験しなければならない期間なんです。そして、新しいイスラエル、すなわち神に反逆しているイスラエルではなく、神に立ち返るイスラエルを生み出す期間。同時に、新しい人類を再創造するための期間でもあるんですね。  
患難時代を通して、おびたしい数の人がイエス・キリストの福音を信じ救われる。

患難時代はただ苦しみが目的の期間ではなく、同時に、新しいものを生み出すためにどうしてもくぐらなければならない。これをくぐらなければ悔い改めないほど、人間は頑固で強情で罪深い。この罪深い人間に対する切り札・最終的な治療として与えられている期間でもあるのですね。

いずれにしても、患難時代直前にはバラ色に見える時代が来ますが、それは**一時的な平和**、もっと言えば**惑わしの平和**であるということです。これが**9番目のしるし**です。次回いよいよ10番目、ラストのしるしについてご紹介したいと思います。

よろしければチャンネル登録もお願いします。

また、この動画はできるだけ短く抑えるために、情報を大分はしょってお話してるんですね。

ですから、初めて聞かれた方々には 分かりにくいメッセージになってるかもしれません。

コメント欄に質問を書いていただいたら、動画の中で取り上げて、逐次回答させていただきたいなと思っていますので、どうぞコメント欄に質問をお寄せ下さい。

ということで、またこのチャンネルでお目にかかることを楽しみにしております。

それでは皆さん、お元気でいらしてください。さよなら！

☆使用した聖書は「聖書 新改訳 2017」です。